

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-31

CSR活動としての企業の環境教育(平成18年度 千代田学 報告書)

田中, 充 / 長野, 浩子 / 山田, 元紀

(出版者 / Publisher)

法政大学地域研究センター千代田学プロジェクト

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

89

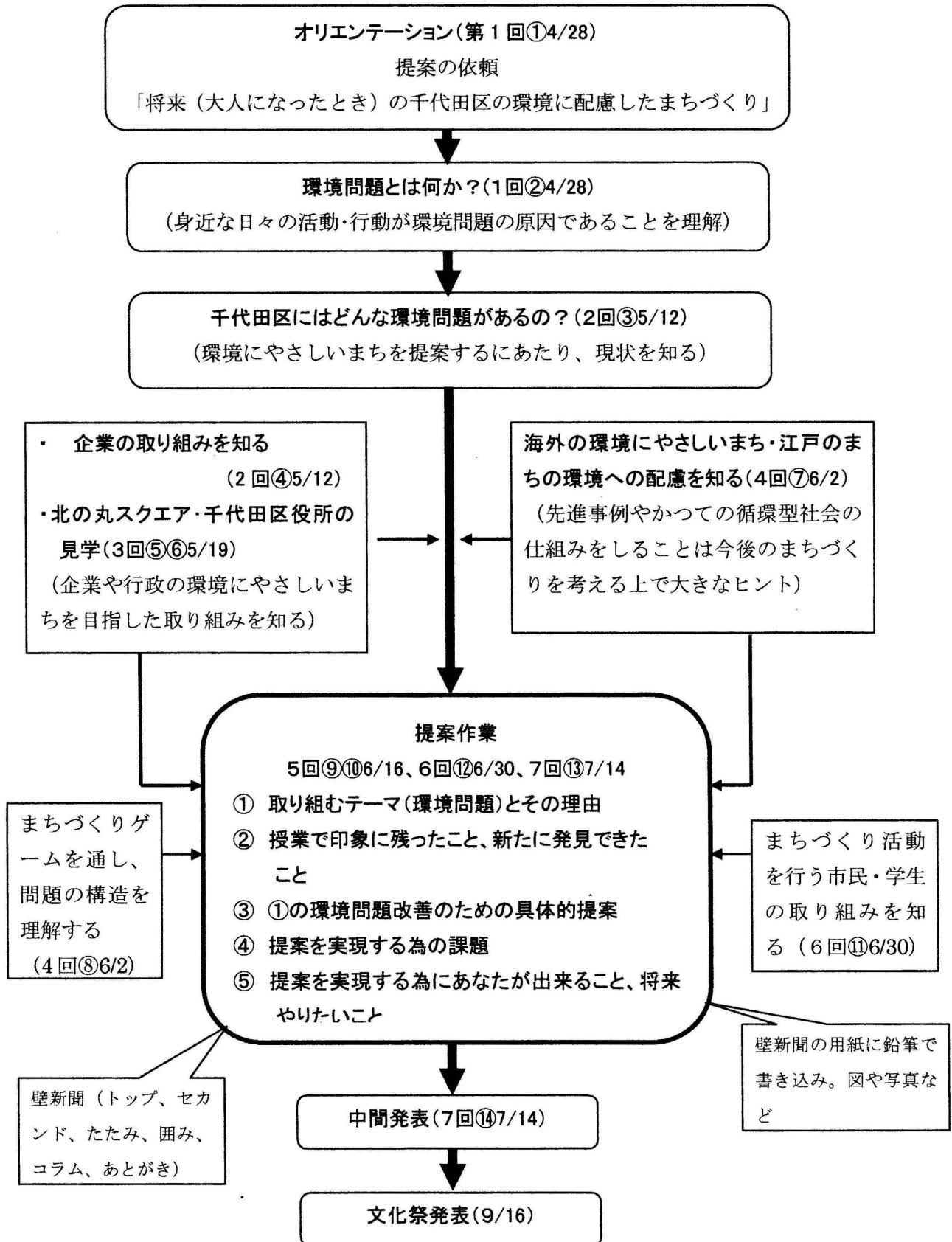
(発行年 / Year)

2007-03

資料編

資料1 九段中等教育学校環境教育プログラム

提案までの流れ



資料 2

九段中等教育学校 環境教育アンケート・結果
 (九段中等教育学校 1 年生全員を対象にした、環境教育についてのアンケート調査)

1 組

- ・ 私は千代田区に住んでいないので、千代田区のことを少し分かってよかったと思う。東京はビルやマンションが多いので、その建物をうまく利用できたらいいと思った。環境に対してこんなに深く考えることはなかったので、総合の時間は私たちにとって良かったんじゃないかと思います。(女)
- ・ 人間自身が満足できるように、これから日本はどんどん発達すると思うのでこれ以上環境を悪くしないように、自分たちは何ができるのか、この総合の時間でとても大切なことを学びました。(女)
- ・ 今までなじみのなかった千代田区の事がわかってこれからは環境のことを常に心に置いて生活しようと思いました。小さなことを大きなことへとつなげていけたらいいです。(女)
- ・ 環境については今まで何回か考えたこともあったが、これほどまじめに考えてみたのは久しぶりだった。改めて深く思うと一人ひとりの行動が環境破壊につながると実感した。(男)
- ・ 千代田区の環境問題に対しての取り組みがよくわかった。また、新聞づくりや討論はきらいだったが、大学生の方々のアドバイスでコツがつかめ新聞づくりや討論が好きになった。(男)
- ・ 日本は小さい国ですが、今までたくさんの文化を作りだし、世界にひろげてきました。日本は、環境に対する取り組みをたくさんしてきました。その活動を世界に広げることが、今、もっとも大切だと思いました。(男)
- ・ 入学する前から説明会などを通しての情報で「大学生と企業の方が来てくれる」ことを楽しみにしていました。そして今回、実際に説明を聞き、活動することが出来、大変うれしいと思いました。この学習で得た知識や考え方を持ち続け、環境やこの後に活かしていきたいです。(男)

2 組

- ・ 環境問題について考えている中で、いろいろなアドバイスをしてくださって、ありがとうございます。僕も将来環境を考えて物作りができる大人になりたいです。
- ・ 環境については以前から少し興味を持っていましたが、自分の意見が見つからず、迷っていました。けれどこの学習を通して、自分の意見、意思が見つかり、すぐためになりました。これからは環境について取り組もうと思っています。
- ・ 「環境問題」という、身近でもあるし、少し離れているのもあるけど、皆一人一人が、まじめに「環境問題改善」への一歩を踏んだらうかなと思いました。やはり口だけではなく実際に行動する、「有言実行」が大切だなと思った。
- ・ 討論みたいなのがすごく楽しかったです。今度は、実際にボランティア活動などに参加してみたいです。こーゆーの好きなんですよ…。今回学んだことを考えながら、実際にできたらいいんじゃないでしょうか。
- ・ 将来、自分が大人になったら仕事でも「環境を大切にすること」を心がけて身近だけでなく視野を広げたいと思います。
- ・ 私はよく欠席したのですが、班の人が笑顔で取り組むのを見て「ああ、前回楽しくやったんだなあ」と思えたりしたことがとても印象に残っています。

3 組

- ・ 班の中で、討論のように意見を交換できてものすごくワクワクした。班の人から「ビルをこわす」なんて

すごい意見もでて、議論が熱くなってきた時、うまくまとめてくれた大学生の方に感謝しています。もしも、私ただけだったら絶対まとまりませんでした。ありがとうございます。m(__. __)m まず、友人から環境問題の話題を広めていこうと計画中です。人から人へ、CM なんかよりずっと効率がいいですから・・。

(女)

- ・ この授業は毎回色々な事を知ることが出来て、いつも楽しみでした。内容も「まちづくり」や「北の丸スクエア&千代田区役所見学」「新聞作り」などとても興味のあることばかりでした。一人で出来ることだけではなく、皆で出来ることをやってみたいとおもいました。(女)
- ・ 今まで環境は大切にしなきゃと思っていたけれど具体的には考えたことがなかったので色々なことがわかりさらに環境に関心をもつようになりました。(女)
- ・ この授業で印象に残ったことは「まちづくりゲーム」です。みんなの考えはそれぞれ個性があっっておもしろかったです。じぶんではこれで良いと思っても、他の人の意見や質問を聞くと施設を一つつくるだけでも難しいんだなと実感した。(女)
- ・ 企業の人と協力しないと環境は変わらないと思った。(男)
- ・ 法政大学の学生の方々へ今まで私たちの環境への意識を高めて下さってありがとうございました。自分たちの手で、千代田区を守り、住みよい千代田区になるように、これからもいろいろな活動をしていきたいと思います。(女)
- ・ この授業を通して環境問題をいろんな視点で見ると、いい点、悪い点がよくみえてきました。環境問題は技術面での問題もあるけど、人の心が一番影響しているなと思いました。大学生の方々は私達の班をまとめてくれたし、本当に私達に対して、いろんな事を教えてくれたと思います。企業の方は私達の将来につながることをいろいろ教えてくれてとても楽しかったです。大学生の方は私とほど遠い存在だと思ったけど、環境問題を考える心はみんな一緒なんだなと考えがかわった。(女)
- ・ 今まで世界規模でしか環境のことを考えていなかったのが千代田区内の事をしっかりとよく考えられてよかったです。(女)
- ・ 今までなんとなく「深刻だなー」と受け止めていた環境問題ですが、この授業を通じて「深刻だ！」と深く考えられるようになりました。(男)

4組

- ・ 今まででも少し意識してきた環境問題。でもそれは広く範囲を見すぎていたと思いました。今回、千代田区のことを考えて身近なことから考えられたのでそこから広げていけたらと思います。(女)
- ・ 初めのうちは「ただでさえ宿題が多いのに、総合でも出されたら終わらないよ」と次の時間までに考えることが多すぎてめんどくさいと思っていました。でもだんだん考えるのが楽しくなってきた「総合って他の授業よりも楽しいからけっこう好き」と思うようになりました。授業を楽しむことは大切だと分かったので総合をやってよかったです。(女)
- ・ この授業では、実際に「環境」を体感できるものが多くあり、よかったですと思います。また、色々と考えていく時、グループ討論というかディベートが多かったのもよかったです。(女)
- ・ この授業があったことで私達一人一人が今まで考えてきたことが、くつ返されたり、おどろくようなことがたくさんあったので、今後も環境のことにふれることがあったら、ぜひ今まで以上に深く考えていきたいと思っています。(女)
- ・ この活動をきっかけに環境に対しての考え方がかわり「みんなが努力していかななくてはならない」と思った。(男)
- ・ グループ活動にすることによって、より多くの知識を得ることができました。また新聞に最後にまとめたのもよかったです。またやってみたいです(新バージョンで)。環境を良くする方法をといつめたい。(女)

資料 3 九段中等教員へのアンケート調査

質問 1. 授業プログラムの内容についてどのように思いますか？

- a. 日頃、体験できないような場所に行き、直接環境問題に触れることができとても良かった。
- b. なかなか面白く、かつ取り組み方によってはものすごく奥の深い内容だと思う。
- c. 身近な話題について最先端の活動が見られ興味深かった。
- d. 大変良かったと思います。
- e. 時代のニーズに合った有益なプログラムだと思います。

質問 2. 大学生の授業参加についてどのように思いますか？

- a. 子どもとの距離が近く、教員とはまた異なる視点で見てもらえるので効果もあると思う。
- b. 子どもたちにとってはとても刺激になるようだと思う。毎週のこの時間を楽しみにしている生徒も多かった。
- c. 世代の近いお兄さんお姉さんという感じがよかった。
- d. 生徒にも活気が出てよいとおもいます。
- e. よい事だと思います。

質問 3. 企業の授業参加についてどのように思いますか？

- a. 専門的な立場でありながらわかりやすく説明も工夫してくださりとでも伝わる内容になった。
- b. 良いと思う。企業とのコラボレーションをもっとダイナミックにしてもらうことも期待しています。
- c. 現実の社会に目を向けさせる点で有益であった。
- d. 大変良いと思います。
- e. 良いと思います。企業の方のお話は教員にとっても色々と勉強になりました。

質問 4. このような授業の開催にあたり、調整機関(コーディネイター)が必要ですか？

- a. 教員がコーディネイターと通じて交流する機会をふやせると考えます。ぜひあると良いと思います。
- b. 必要です。
- c. 双方にとって楽になると思われる。
- d. 居ればさらに充実すると思います。
- e. 絶対に必要だと思います。

質問 5. 授業進行に当り大学生に対するご意見をお寄せください。

- a. 段々時間をすぎて、効率よくなったともう。
- b. かなりしっかりできていた反面、態度等見苦しい人も居たので今後は少し考えてもらえればと思います。
- c. 日ごろ、口数の少ない学生さんには班活動の場面でもう少しリーダーシップを発揮して欲しかった。
- e 前に準備(説明の仕方の練習や生徒たちからの質問や生徒たちの動きを想定しての助言等)がもう少し必要ではないかと思う場面もありましたが、殆どの状況において皆さん明るくキビキビと動き、生徒をリードしてくれていると感じました。ただ、服装やガムを噛むなどの生徒に良い影響を与えないと思われる行動については配慮して頂きたい場面もありました。

その他、自由記述

- a. 子どもたちに貴重な体験を与えていただき感謝しています、ありがとうございました。
- d. 学校とのすりあわせが十分必要でしょう。

資料4 シンポジウム・アンケート調査報告

本アンケート調査は、当日のシンポジウム参加者を対象に実施したものであり、結果をまとめて以下に報告する。シンポジウム参加者は76名であり、アンケート回収数は19件で、回収率は25%となった。

問1. 所属

表 3-1 (人)

A (企業)	12
B (教育)	0
C (行政)	0
D (民間)	5
E (個人)	1
F (学生)	1
合計	19

図 3-1

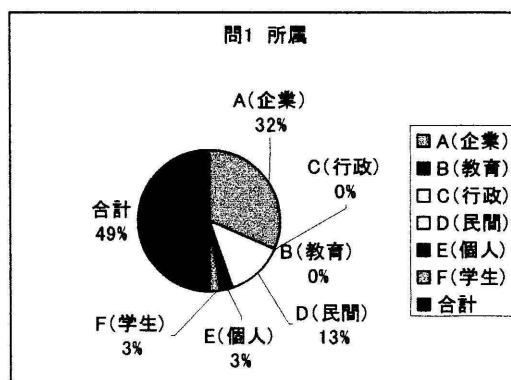


表 3-2<内訳>

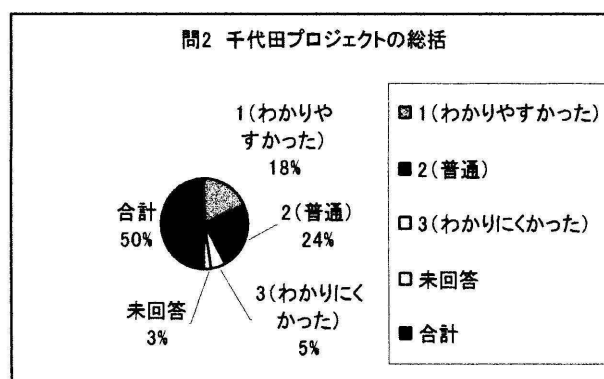
A (企業)	製造業 4、環境事業 2、ガス 1、総合設備工事 1、建設土木 1
D (民間)	都市計画 1、マンション管理組合支援事業 1、環境 NGO1、まちづくり NGO1
E (個人)	市議会活動 1
F (学生)	政策科学研究科 1

問2. 千代田プロジェクトの総括

表 3-3 (人)

1 (わかりやすかった)	7
2 (普通)	9
3 (わかりにくかった)	2
未回答	1
合計	19

図 3-2

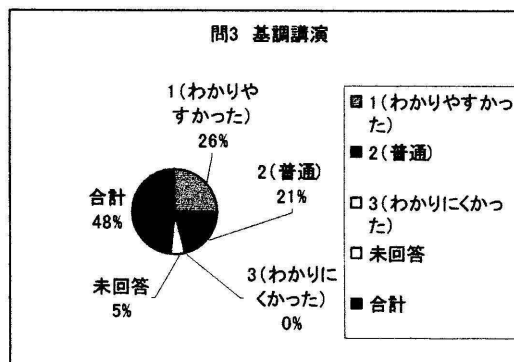


問3. 基調講演〈藤川大祐氏〉

表 3-4 (人)

1 (わかりやすかった)	10
2 (普通)	8
3 (わかりにくかった)	0
未回答	2
合計	19

図 3-3



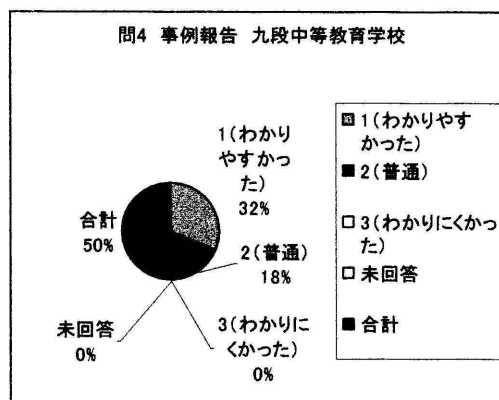
問4. 事例報告

1) 九段中等教育学校

表 3-5 (人)

1 (わかりやすかった)	12
2 (普通)	7
3 (わかりにくかった)	0
未回答	0
合計	19

図 3-4

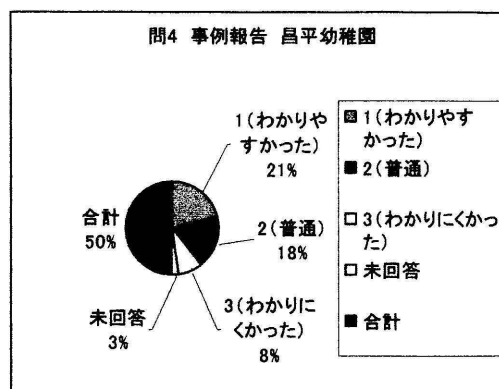


2) 昌平幼稚園

表 3-6 (人)

1 (わかりやすかった)	8
2 (普通)	7
3 (わかりにくかった)	3
未回答	1
合計	19

図 3-5

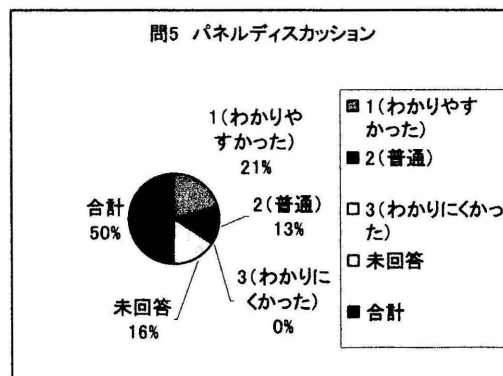


問5. パネルディスカッション

表 3-7 (人)

1 (わかりやすかった)	8
2 (普通)	5
3 (わかりにくかった)	0
未回答	6
合計	19

図 3-6



問6. パネルディスカッション

表 3-8 (人)

①企業と学校の連携で行う環境教育	9
②企業の CSR 活動としての環境教育	8
③企業の本来事業を素材として行う環境教育	9
④第三者機関設立の必要性	5
⑤その他	1
未回答	0
合計	32

表 3-9<理由>

①企業と学校の連携で行う環境教育	多様な主体が学びの場に関わるきっかけになるから。
	重要性がよく理解できたから。
	すでに企業として学校における環境教育を行っているが、それをより良いものとするため。
	学校にとっては実際の外部の学習、企業にとっては地域との結びつき。
	継続をいかにするか。環境に興味を持つ学生は多いため、企業の環境対応活動に触れ合う機会は大切。
	実際に授業を行っている。
	環境を良い方向へ進めるためには各主体間の太いパイプが必要。
②企業の CSR 活動としての環境教育	環境悪化を防止し、食い止めるための早期教育。
	社会内の主体として他の主体と協調を持続するために必要。
	地域社会との関わりや理解を深める。
③企業の本来事業を素材として行う環境教育	企業はどんどん環境改善に投資を。資金援助を幅広く。
	本業が最も社会とのつながりが大きい。
	たくさんありそうだ。
	実際に授業を行っている。
	継続するための必須条件と考えるため。

④第三者機関設立の必要性	大切さを実感できた。具体的な施策を期待している。
	企業と学校の接点として必要。
	今のままだと企業人として参加しにくいから。
	社会的な発展のスピードが加速的に進んでおり、早期からの社会教育が必要。
⑤その他	地域社会を軸とする環境教育の限界。社会的企業家的な人々の育成とその支援策が欲しい。

問7. ご参加の皆様への質問

1) 企業が学校における環境教育に参画することについて

表 3-10 (人)

①行うべき	16
②行うべきでない	0
③わからない	3
未回答	0
合計	19

図 3-7

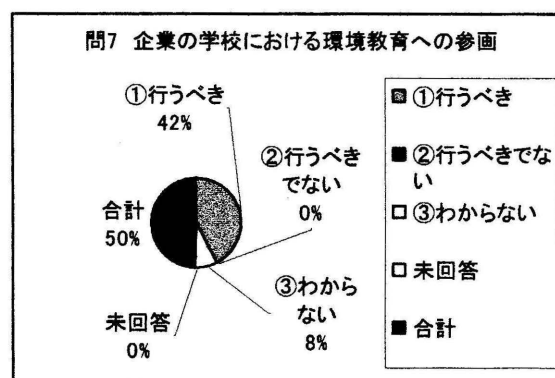


表 3-11<理由>

①行うべき	環境と言えども経済性を無視して対応することはできない。そのことを伝えられるのは企業である。
	地域に根ざした企業活動にとっては必要。どう見られているか、どう理解して欲しいかのコミュニケーションとなる。
	企業の社会貢献の一環としても行うべきである。
	机上論ではなく実践が必要だから。
	学校単独で行う教育であれば予算・アイデア・手法が限られているため。
	実社会の現場を子供たちが知ることで、普段の授業で得られる気付きを得られるから。

2) 学校が企業の行う環境教育を活用することについて

表 3-12 (人)

①活用すべき	16
②活用すべきではない	0
③わからない	2
未回答	1
合計	19

図 3-8

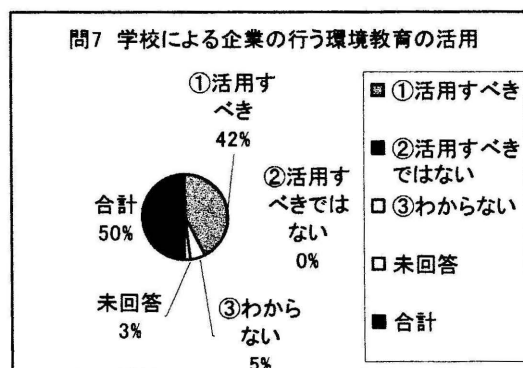


表 3-13<理由>

①活用すべき	情報は大いに活用すべきである。
	教育現場の第一線の状況把握の立ち遅れを補完。
	社会貢献が当然であることにつなげるためにも必要。
	身近にある実学の体験を生かす。
	学校が行う環境教育を補完する機能が大きい。
	実践的。
	学校単独で行う教育であれば予算・アイデア・手法が限られているため。
教員がカバーできない範囲のノウハウを導入できるから。	

問8. 企業と学校の関係者の皆様への質問

1) 企業が本来事業を素材として学校の環境教育に参画することについて

表 3-14 (人)

①参画したい	10
②参画したくない	1
③わからない	3
未回答	5
合計	19

図 3-9

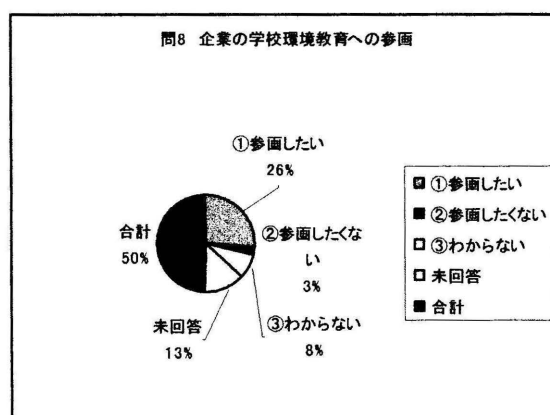


表 3-15<理由>

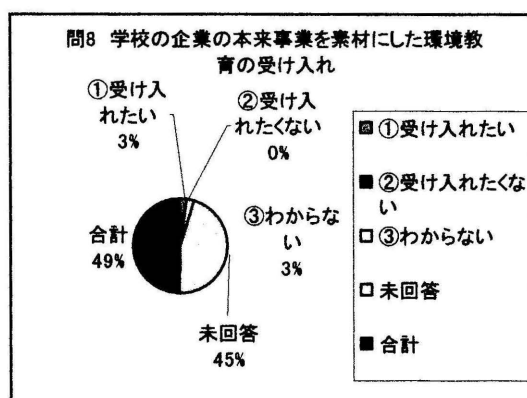
①参画したい	当社は紙を素材とした企業。紙の現状が循環型で大きな位置を占めていることを伝えたい。 提供できるテーマ・内容があれば協力したい。
③わからない	参画するための時間が現在ない。

2) 学校として企業の本来事業を素材にした環境教育を受け入れたいと思いますか？

表 3-16 (人)

①受け入れたい	1
②受け入れたくない	0
③わからない	1
未回答	17
合計	19

図 3-10



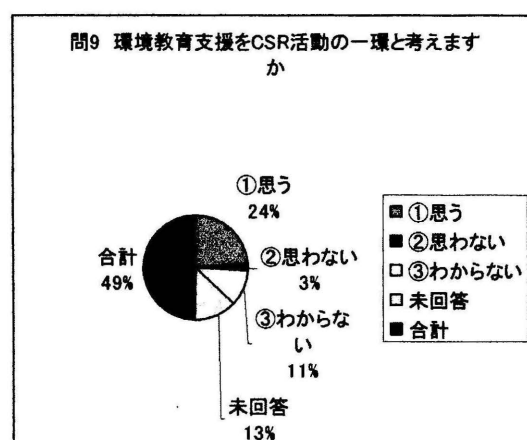
問9 企業の方への質問

1) 環境教育支援を CSR 活動の一環と考えますか？

表 3-17 (人)

①思う	9
②思わない	1
③わからない	4
未回答	5
合計	19

図 3-11



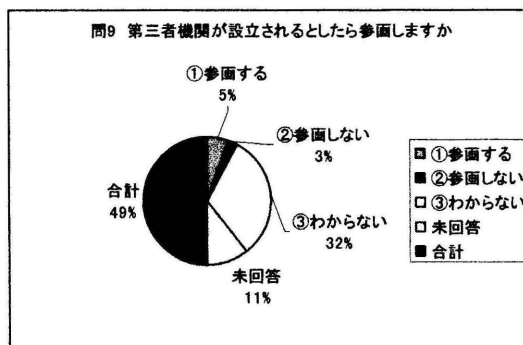
2) 第三者機関が設立されるとしたら参画しますか？

表 3-18

(人)

図 3-12

①参画する	2
②参画しない	1
③わからない	12
未回答	4
合計	19



問9. その他、ご感想、ご意見、当プロジェクトへのご要望

表 3-19

ID	レジメの準備が雑なのでもう少し整理して袋に入れて欲しい。学校へ行って授業することが必ずしも CSR であるとは言えないのではないかと考えています。世の中の報告では CSR に結び付けているものが多いが無理があると思います。
	「環境教育の主流は自然環境系で人間環境系はほとんど行われていない」これは、人間環境系の教育をすべきとの理論だと思うが、本当に自然環境系の教育は十分にされているのか？
	パネルディスカッションが参考になった。バランスが良かった。
	議論の進め方があいまい。論点が絞られていない。
	質疑は手を上げて発表者に言わせた方が良い。
	パネリストの説明はもっと短く。時間を守って欲しい。
	最初から「第三者機関の必要性ありき」で進められたので、すんなりと受け入れられなかった。
	第三者機関はあっても良いが、企業としてその良し悪しを見極めるのがネックとなってくる。
	長期的に歴史的評価を受ける計画作成と、それを実現させる起動力となる事業を展開していく研究を続けて下さい。
	環境教育の素材（企業）、特技（個人）を登録することのできる NPO を作ると良いと思う。学校のカリキュラムに入れる時に入れやすいと思う。また、参加したくても企業として参加できなくても個人として参加できる場があった方が良いと思う。
	事業レベルという取り組み事例が多く、広域を扱ったテーマを今後取り上げて頂きたい。
	行政の助成金・民間の寄付金などがわずかでしかなく、意欲のある NPO も活動が極めて困難である現状を見て頂きたい。
	自治体+町会+学校の取り組みが一成功例。

平成18年度 千代田学プロジェクト・報告

シンポジウム CSR活動としての企業の環境教育支援

平成19年3月16日

主催：法政大学地域研究センター
協賛：千代田区、千代田区教育委員会
法政大学地域研究センター・山田元紀

法政大学地域研究センター

千代田学プロジェクトの総括

- ◆ 平成16年度
「千代田区関係主体の環境意識・行動調査と主体関連携についての研究及び提言」
- ◆ 平成17年度
「企業の環境教育支援活動に関する調査研究」
- ◆ 平成18年度
「CSR活動としての企業の環境教育支援」

法政大学地域研究センター

平成16年度千代田学・報告

「千代田区関係主体の環境意識・行動調査と主体関連携についての研究及び提言」

- ◆ 千代田区内立地の上場企業の本社を対象にアンケート調査とヒアリングを実施
- ◆ 結果は：
 - ①千代田区という地域への意識の欠如
 - ②しかし、地域社会への貢献の意欲はある

法政大学地域研究センター

平成17年度千代田学・報告

「企業の環境教育支援活動に関する調査研究」

- ◆ 環境教育を支援の意向をもつ企業の存在
上場企業の本社 300社
ISO認証取得事業所 180ヶ所
- ◆ 環境教育の支援を期待する学校の存在

ニーズとシーズが存在しても実現していない
その理由はどこにあるのだろうか？

法政大学地域研究センター

平成18年度千代田学・報告

- ◆ 実践事例報告
千代田区立九段中等教育学校
千代田区立昌平幼稚園
- ◆ 第三者機関の先進事例紹介とその役割
NPO法人子ども環境活動支援協会
- ◆ 課題と提言
環境教育の二つの領域
企業の環境教育支援活動
- ◆ 展望

法政大学地域研究センター

実践事例報告

- ◆ 千代田区立九段中等教育学校
中学一年生160名を対象として
実施期間：平成18年4月から7月(7回)
「千代田区のまちづくりと環境問題」
- ◆ 千代田区立昌平幼稚園
3才、4才、5才児30名を対象として
実施期間：平成19年1月から2月(4回)
「水とわたし」

法政大学地域研究センター

第三者機関の先進事例紹介とその役割

- ◆ NPO法人子ども環境活動支援協会
企業・NPO・学校のパートナーシップ
による環境学習の推進
- ◆ 第三者機関のはたす役割
地域社会におけるつなぎ役

法政大学地域研究センター

課題と提言

- ◆ 持続可能な社会の構築のための環境教育
- ◆ 環境教育の二つの領域
自然環境系
人間環境(人工環境、人的環境)系
- ◆ 企業の環境教育支援活動
CSR活動の一環として
企業の本来事業を素材とする環境教育

法政大学地域研究センター

持続可能な社会の構築のための環境教育

- ◆ 国連持続可能な開発のための教育の10年
(DESD)
2002年にヨハネスブルグサミットで採択
- ◆ 環境の保全の意欲の増進及び環境教育を推進に関する法律(推進法)
2003年(平成15年)に制定

法政大学地域研究センター

環境教育の二つの領域

- ◆ 自然環境系
環境教育の主流となっている
- ◆ 人間環境(人工環境、人的環境)系
ほとんど行なわれていない

法政大学地域研究センター

企業の環境教育支援活動

- ◆ CSR活動の一環として
次世代の育成
- ◆ 企業の本来事業を素材として行なう環境教育
人間環境を支える財とサービスの供給
企業の経済行為は環境教育の素材

法政大学地域研究センター

展望

- ◆ 持続可能な社会の構築のための環境教育
持続可能な社会で企業が果たす役割
- ◆ 第三者機関が地域社会に及ぼす影響
環境教育が拓く新たなコミュニティの創出

法政大学地域研究センター

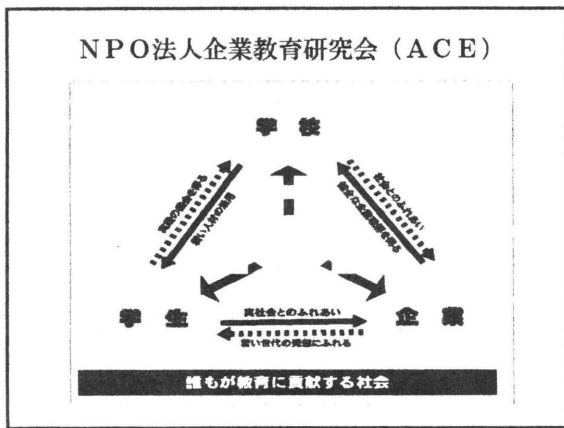
資料6千葉大学教育学部助教授藤川大祐

企業が行う環境教育の 実践と課題

千葉大学教育学部助教授 藤川 大祐
(NPO法人企業教育研究会理事長)


プロフィール

- 千葉大学教育学部助教授(教育方法学・授業実践開発)。大学院修士課程カリキュラム開発専攻(昼夜間開講)等担当。
- メディアリテラシー、ディベート、環境、数学、アーティストとの連携授業、企業との連携授業等、さまざまな分野の新しい授業づくりに取り組む。警察庁バーチャル社会のもたらす弊害から子どもを守る研究会委員、千葉県青少年健全育成計画策定委員会委員長、千葉県NPO活動推進委員会多様な主体との連携専門委員会委員、NPO法人企業教育研究会(ACE)理事長、教育貢献活動推進協議会(CBE協議会)理事長、NPO法人全国教室ディベート連盟事務局長、日本メディアリテラシー教育推進機構(JMEC)理事長、NPO法人芸術家と子どもたち理事等をつとめる。
- 著書『企業とつくる授業』『企業とつくるキャリア教育』『企業とつくる食育(近刊)』(以上、教育同人社)、『メディアリテラシー教育の実践事例集』『養老教諭のためのメディアリテラシーによる健康学習』『授業分析の基礎技術』(以上、学事出版)、『広告!しる・みる・つくる(全5巻)』(学習研究社)他。
- ホームページ <http://homepage2.nifty.com/dfujikawa/>



環境教育の事例


未来の車をプロデュースしよう-自動車会社と連携した環境学習-



自動車会社の立場に立って、「環境への負荷が少ない自動車」を考える


「消費者」「生活者」でなく「生産者」の視点をもつ

子どもたちがアイデアを出し、企業の人に聞いてもらう



環境教育の事例

シャープ「ソーラーアカデミー」



太陽電池の仕組みや大切さの出張授業

「うちの小学校は屋上に太陽電池がついているから、電気をいくら使ってもいいんでしょ?って子供たちが言うんですよ。この電話がきっかけで、2004年10月、シャープは『ソーラーアカデミー』の活動をはじめました。(HPより)」

環境教育の事例

東京電力による産業協力授業「エネルギーと環境」



環境やエネルギーについての系統立てられた説明、富津市にあるTEPCO新エネルギーパークと袖ヶ浦市にある袖ヶ浦火力発電所を見学、グループによるプレゼンテーション等。(CECホームページより)




環境教育の事例

三洋電機「小学校ENERGY EVOLUTION PROJECT」…充電電池、「eneloop」の寄贈と「電池を使い捨てない」ことに関する授業

気象キャスターネットワーク「地球環境教育」…地球温暖化のはなし、リサイクルと新エネルギー（シャープとも連携の予定）

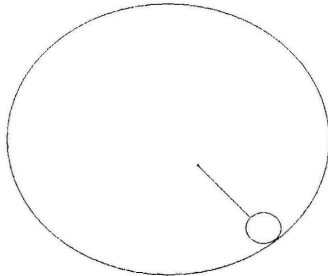
日産自動車…燃料電池車に関する授業

東京海上日動「マングロープと制服のエコサイクルをテーマとした地球環境教育」

企業が関わる環境教育の意義

- 「見えにくい」ものを「見える」ようにする（教材の提供）
- 環境問題に取り組む「共同体」の姿を見せる（特に、未解決の問題に取り組む姿を見せる）
- 社会に貢献することが当然であること、多様な生き方があることを示す（「利他的な夢」につなげるキャリア教育）
- 子どもたちを共同体の「新参者」として迎え入れる（CSRの柱としての次世代育成）
- 子どもに配慮した環境づくりを、子どもとともに考える（脱「ファスト風土」）

環境教育と正統的周辺参加論



実践共同体に周辺から正統的に（ホンモノとして）参加し、徐々に共同体の中核に向かっていく。学びをこのような過程としてとらえる考え方。

環境教育における学びを、「環境に貢献する大人たちの共同体に、子どもを正統的周辺参加させること」としてとらえなおす。

「達人」と「新参者」だけでなく、「先輩」が重要

「環境に貢献する大人たちの共同体」とは？

- 次世代に「ツケ」をまわさないという発想（世代間平等の考え方）
- 「昔はよかった」という懐古主義に陥らず、「持続可能な社会」を目指す
- クリティカル・シンキング（批判的思考）を実践する
- 「全か無か」で絶望するのではなく、できることを行う現実主義
- 非協力者の告発でなく、協力を得やすいしくみをつくる

企業が関わる環境教育の課題

- 何が「環境によい」かには、議論がある。一つの立場を伝えるだけではまずい。
- 企業の取り組みを知るだけでは、クリティカル・シンキングを発揮できない。
- 経済的な面や犠牲を出す面など、子どもに考えさせにくい点の扱いが難しい。
- 学校と企業とをつなぐコーディネーターの役割が重要だが、コーディネーターが足りない。

千代田区立九段中等教育学校の事例報告

CSR活動としての企業の環境教育支援

2007年3月16日

三菱地所株式会社
CSR推進部 浜谷英一

三菱地所株式会社

本日の報告内容

1. 三菱地所グループ概要
2. プロジェクトの主旨
3. プロジェクト概要
4. プロジェクトの振り返り
5. 今後に向けて

三菱地所株式会社

1. 三菱地所グループの概要

三菱地所グループ基本使命

私たちはまちづくりを通じて社会に貢献します

私たちは、住み・働き・憩う方々に満足いただける、地球環境にも配慮した魅力あふれるまちづくりを通じて、真に価値ある社会の実現に貢献します。

この基本使命を実践することが、三菱地所グループのCSR

ビル事業

大手町・丸の内・有楽町地区を中心にビルの開発・賃貸・運営管理や大型ショッピングセンター、駐車場事業、地域冷暖房事業等を展開。

住宅事業

首都圏を中心にマンション、販売住宅の分譲、宅地の開発・分譲、フィットネスクラブの運営等を行っている。

三菱地所株式会社

資産開発事業

投資家のニーズに応え、収益用不動産を開発・運営。

海外事業

RKKグループ社を中核にニューヨーク・ロンドン等にて「RKK」を所有・運営。

設計監理事業

環境・文化・未来の「ランドスケープデザイン」に、建築及び土木関連の設計・監理をはじめ、リニューアル業務等を行っている。

注文住宅事業

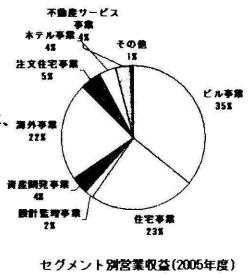
個人注文住宅及び法人販売住宅の建築請負。

ホテル事業

国内のホテルを「ホテルオークラ」として展開。

不動産サービス事業

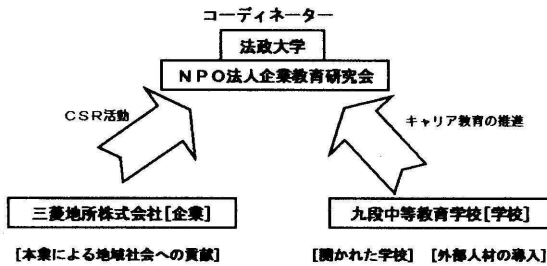
不動産の仲介、マンション等の販売代理、事務所や住宅の賃貸借事業等を行っている。



三菱地所株式会社

2. プロジェクトの主旨

持続可能な社会を目指して



三菱地所株式会社

3. プロジェクトの概要

期 間：2007年4月28日～7月14日（計7回）

（毎回金曜日の午後：約2時間）

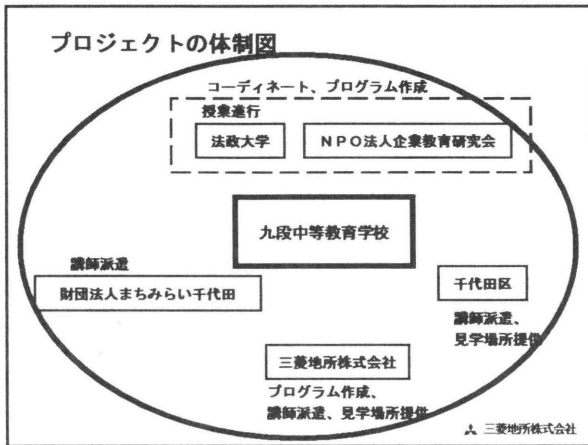
対 象：千代田区立九段中等教育学校1年生

（40名×4クラス＝計160名）

テーマ：「千代田区の30年後の環境にやさしいまち」実現のための提案を生徒達で壁新聞にまとめ、発表する。（4人一組の班毎に提案。）提案のとりまとめに向け、千代田区における環境問題の学習や現地見学、市民団体の活動等について学ぶ。

その他：本プロジェクトは、千代田区が区内の大学機関等に助成を行う「千代田学」の一環として実施。

三菱地所株式会社



1回目[オリエンテーション]

4月28日
(九段中等教育学校)

環境問題の基礎学習と企業からの提案

- ・日頃の行動の中で「環境によいこと」「環境に良くないこと」を生徒達が考え、環境問題の基礎を学ぶ。
- ・三菱地所から「千代田区の30年後の環境にやさしいまち」を提案依頼。

▲ 三菱地所株式会社

2回目[ワークショップ]

5月12日
(法政大学スカイホール)

千代田区の環境問題を学ぶ

- ・法政大学学生のファシリテートにより、千代田区の環境問題を学ぶ。
- ・三菱地所による環境への取り組み事例とまちづくりの仕組みを解説。
- ・生徒達はスカイホールから千代田区のまちを見学。

▲ 三菱地所株式会社

3回目[現地見学]

5月19日 (北の丸スクエア)
(千代田区役所)

企業、行政による環境の取り組みを見て学ぶ

- ・開発型証券化手法を用いて三菱地所他の出資によるSPCが開発した高層ビル「北の丸スクエア」を見学。(案内：三菱地所)
- ・千代田区役所の屋上緑化と内窓を見学。(案内：千代田区役所)

▲ 三菱地所株式会社

4回目[事例学習、まちづくりゲーム]

6月2日
(九段中等教育学校)

宿題報告、法政大学学生によるゲーム

- ・世界の環境にやさしいまち、江戸時代のまちについて、宿題として生徒達が調べたことの報告。
- ・「経済を重視する人」「自然を重視する人」「にぎわいを重視する人」「安心・安全を重視する人」という、まちを構成するさまざまな立場の人達になったつもりで「まちづくりゲーム」を行い、多様な価値観があることを学ぶ。(ファシリテート：法政大学学生)

▲ 三菱地所株式会社

5回目[壁新聞づくり]

6月16日
(九段中等教育学校)

環境問題の中からテーマを選定

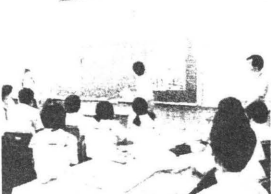
- ・生徒達は4人一組の班毎に壁新聞による提案づくりの作業を行う。
- ・屋上緑化(温暖化)など、班毎にテーマを決め、ワークシートに基づいてトップ記事、セカンド記事及びそれに続く記事を決めていく。

[当日はNHKテレビの取材が入り、当日夕方のニュースにて放映された。]

▲ 三菱地所株式会社

6回目[取り組みの学習] 6月30日
(九段中等教育学校)

市民団体の活動を学ぶ、提案作成



- ・市民団体「まちみらい千代田」の取り組みを通じて、環境保全やまちづくりにおいてネットワークや連携の重要性を学ぶ。
- ・引き続き、生徒達は提案である壁新聞の作成作業を行う。

▲ 三菱地所株式会社

7回目[中間発表会] 7月14日
(九段中等教育学校)

壁新聞を作成し、発表



- ・4人一組の班毎に各クラスにて成果品である壁新聞を発表。

▲ 三菱地所株式会社

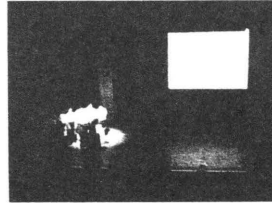
生徒達の提案(例)

- ・千代田区を自転車のまちに
- ・弁当容器を再使用する「弁当ブリッジ」
- ・自動車の屋根も緑化し、自家発電・緑化を義務付け
- ・ヒートアイランド対策としての電気料金値上げ
- ・クリスマスツリーにて温暖化防止
- ・環境税の導入
- ・屋上緑化空間にてコミュニティの創造
- ・...

▲ 三菱地所株式会社

最終回[文化祭発表] 9月16日
(銀座プロッサム)

成果品をまとめ、文化祭にて代表発表



- ・今回の一連の授業について生徒達の代表が舞台発表。

▲ 三菱地所株式会社

新聞コンクールにて最優秀賞を受賞

生徒達の作成した壁新聞が、

- ・第56回全国小・中学校・PTA新聞コンクールの中学校・学習新聞の部で第1位(最優秀賞)
- ・第33回東京都小・中学校新聞コンクール中学校・学習新聞の部で第1位(審査委員会賞)をそれぞれ受賞。

意見性の高い作品であることが評価された。

▲ 三菱地所株式会社

4. プロジェクトの振り返り

[パートナーシップ]

- ・法政大学、NPO法人企業教育研究会、三菱地所、千代田区、まちみらい千代田といった多くの関係者の連携のもとに実施された。特に30名を超える学生が授業の進行・サポートに参加したことは特筆すべきことである。

[企業の参加](学校側から)

- ・企業が入ることで子ども達も普段の授業にはない新鮮さを感じた。自分の目で見たり触ったりすることで、学校の教師の授業とは異なる新鮮さがある。

▲ 三菱地所株式会社

[企業の立場で] (三菱地所から)

- ・千代田区にてまちづくりを行う企業の立場からCSR活動の一環として参加した。本業に関わることで地域社会に貢献することがポイント。
- ・今回の授業には他部署へも協力を要請した。CSR活動はCSR担当部署のみが行うものではなく、会社として行うものであるという意識付けにもわずかながら貢献した。

関係部署：CSR推進部、都市計画事業室、資産開発事業部、
㈱三菱地所設計、㈱三菱地所プロパティマネジメント

よ、三菱地所株式会社

5. 今後に向けて

[今回の反省から]

- ・プログラム作成にあたっては、全体ビジョンを明確にし、関係者で共有することが必要。
- ・コーディネーターの役割が重要。
- ・学校側、関係者の役割分担を明確にしておくことも肝要。

[「都市文化」授業への協力]

- ・2006年10月～2007年2月に、九段中等教育学校による「都市文化」授業に三菱地所として協力。
- ・千代田区内各企業に4人一組で子ども達が訪問し、企業から与えられる課題に対して提案をまとめる。
- ・三菱地所は、①丸ビルMARUCUBEの活用方法、②新しいマンションの企画について課題を与え、提案を依頼。

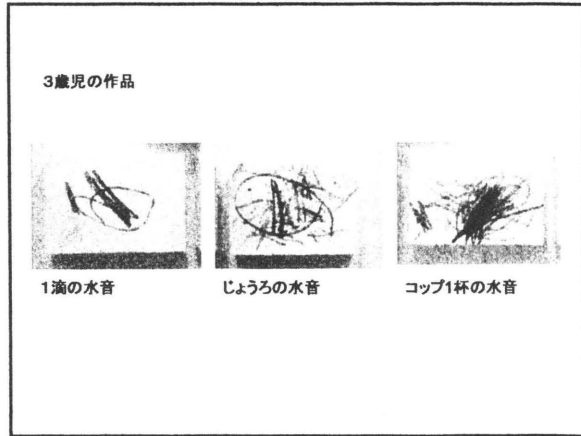
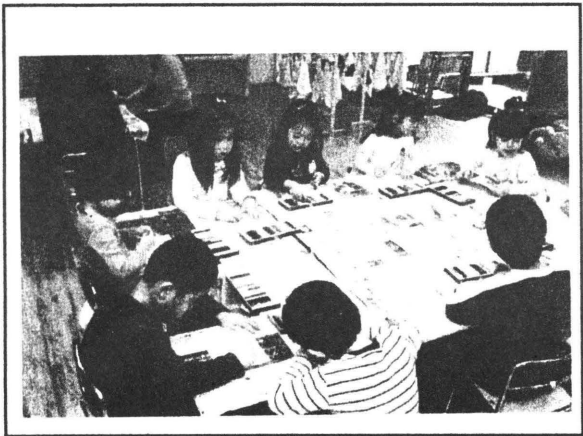
よ、三菱地所株式会社

平成18年度
 千代田学プロジェクト
企業が学校と連携して行なう環境教育

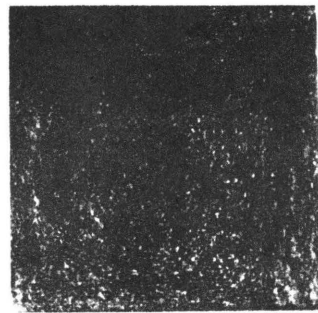
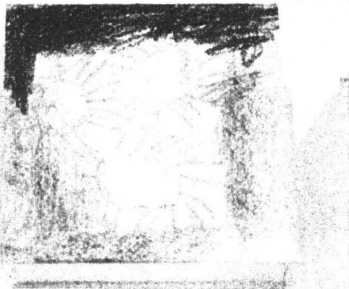
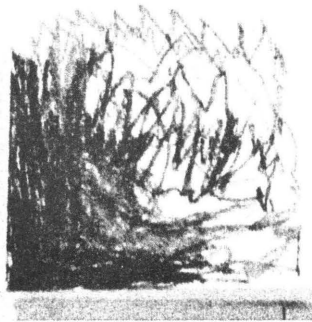
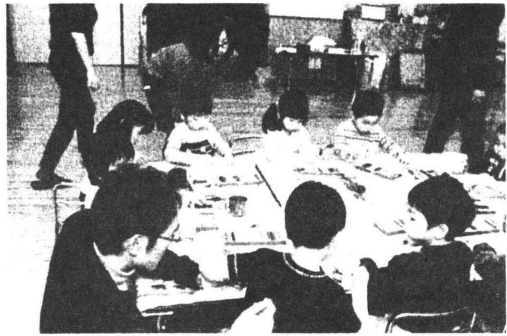
テーマ:「水と私」

千代田区立昌平幼稚園

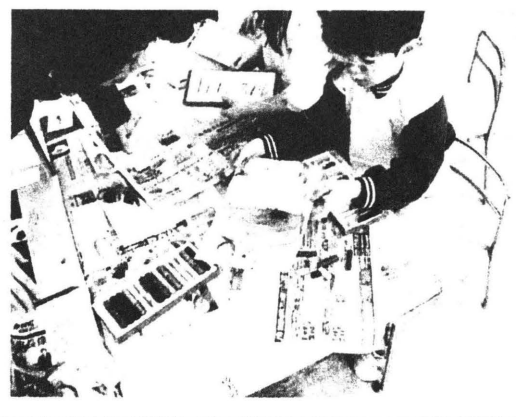
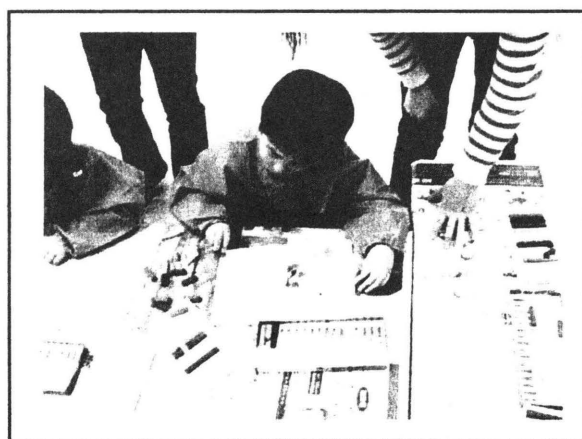
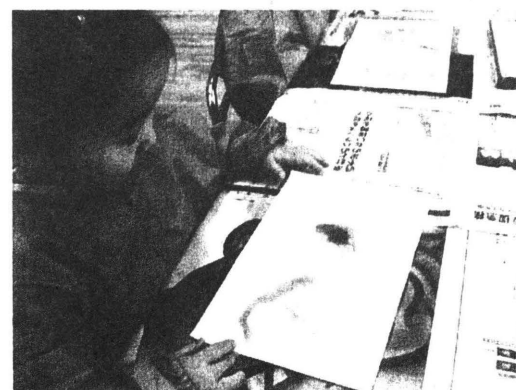
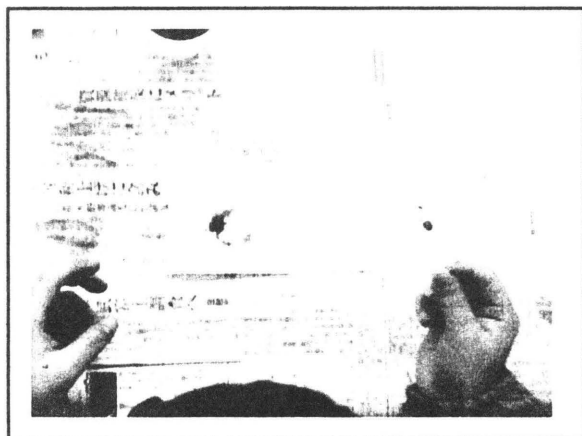
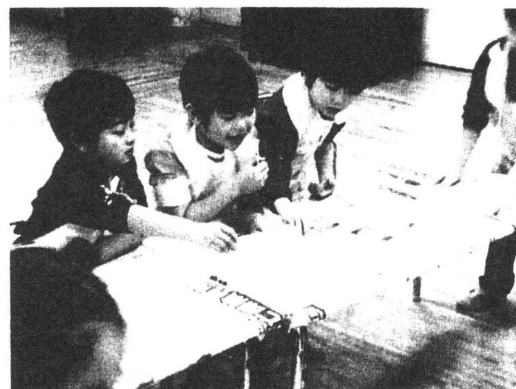
実施期間:平成19年1月~2月
 連携企業:株式会社芸術造形研究所

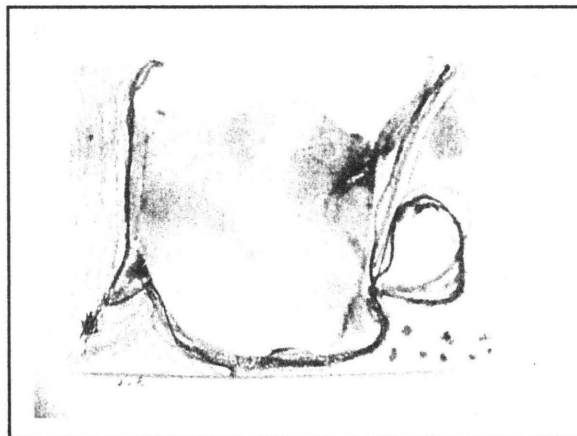
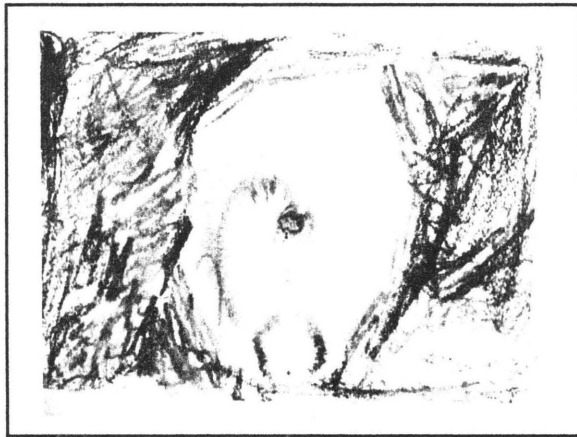
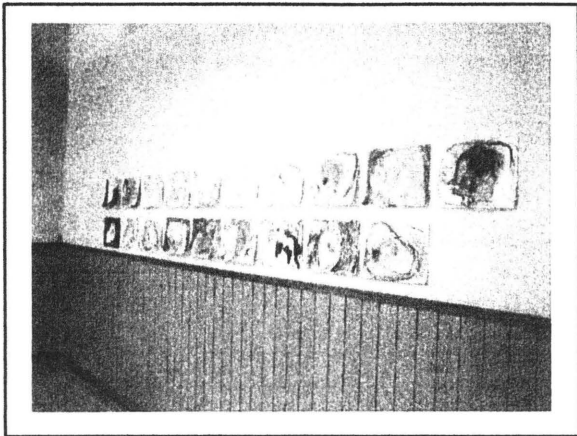


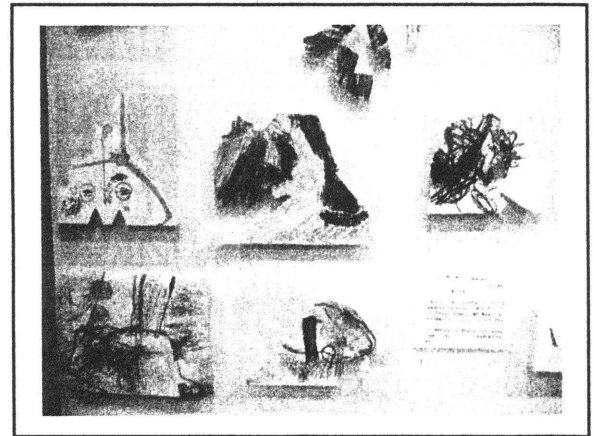
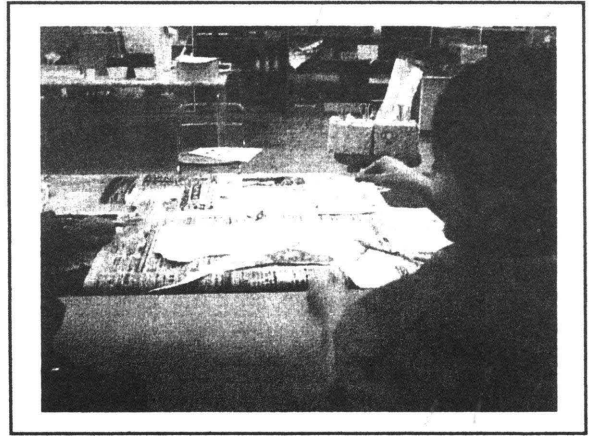
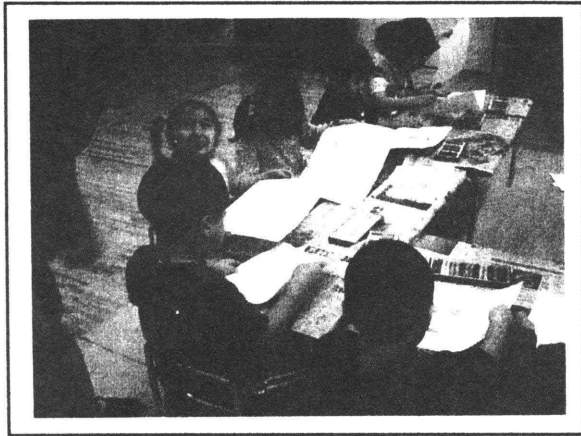
無味無臭な水を、
自分の五感を使って繊細に感じ取りながら
描きます。
ほのかな甘みや苦味、
舌の上のまろやかな感触やのどごし、
冷たさや口の中の変化していく温度など、
自分だけの実感を表現します。



水でぬらした紙に絵具を落とすことで、
水と紙、絵具が反応し合い生まれる複雑な色と形。
それらに感動し、触発されながら
自分なりの線、色を加えます。
作品は偶然のにじみを超え、
それぞれの子どもたちの力強い表現へと展開します。







企業が行う環境教育の実践と課題

—NPO法人企業教育研究会の取り組み—

NPO法人 企業教育研究会
塩田 真吾

■ NPO法人企業教育研究会とは

- 設立 2003年3月
- スタッフ 常勤 6名 非常勤 16名
- 実施校数 約100校
- 連携企業 約50社

誰もが教育に貢献する社会

■ NPO法人企業教育研究会とは

千葉県内での連携

- 千葉県商工労働部**
 - 関係部署との連絡調整
 - 企業との連携
- 千葉県教育委員会**
 - 関係部署との連絡調整
 - 実践研究全体に対する指導助言
 - 合同報告会開催
- 企業**
 - 技術ノウハウの提供
 - 授業プログラム、教材の作成協力
 - 授業実践
- ACE 企業教育研究会 (千葉大学)**
 - 授業コーディネーター
 - 授業プログラム、教材の作成
 - 授業実践
 - 実践報告書の作成
 - 企業の開拓
 - 予算の執行
- 学校**
 - 授業実践 準備等
 - 授業公開
 - 地区での報告

■ 環境教育の考え方

正統的周辺参加論

学び=知識の注入 学び=実践共同体への参加

環境教育での学びは、知識の注入ではなく、環境活動を行う実践共同体への参加

■ 環境教育の考え方

正統的周辺参加論にもとづく環境教育

■ 環境教育の考え方


キャリア教育としての環境教育

資料 9 NPO法人企業教育研究会

■ これまでの実践事例

千代田区九段中等教育学校1年 総合的な学習の時間


	カリキュラム内容
1・2校時	これからの活動について知り、地球規模の環境問題について考えよう
3・4校時	千代田区の環境問題と課題を改善しようとしている人々の工夫を知ろう
5・6校時	千代田区・企業の環境への取り組みを見学しよう
7・8校時	まちづくりゲームをしよう
9・10校時	『環境に配慮した千代田区のまちづくり』を実現するための提案を考えよう
11・12校時	提案を発表するために新聞をつくらう・千代田区で活動している団体の見学
13・14校時	提案を発表しよう



■ これまでの実践事例

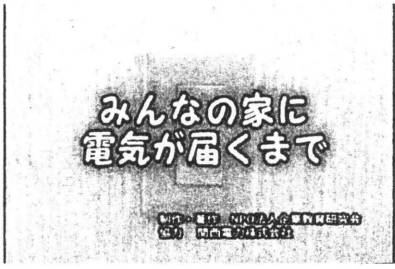
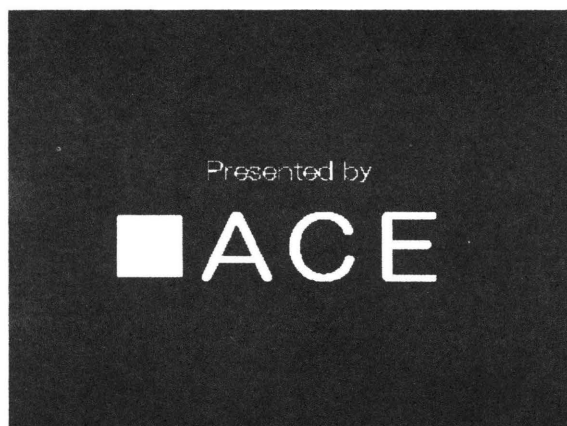
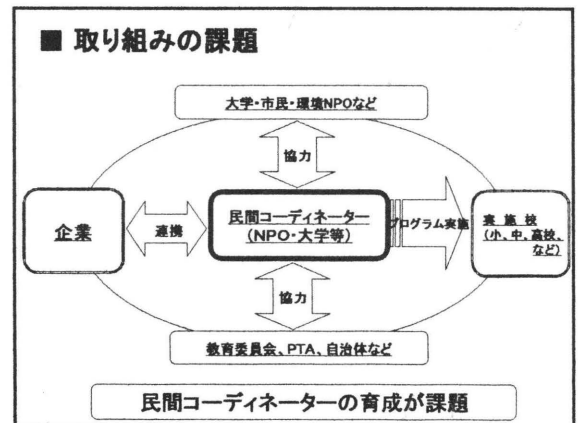
京都市内小学校6年 総合的な学習の時間
(協力:京セラ株式会社)

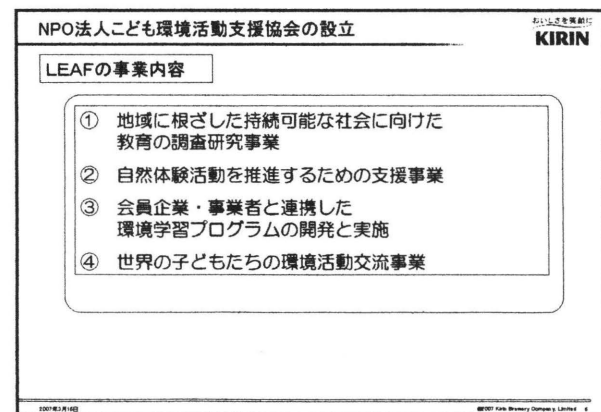
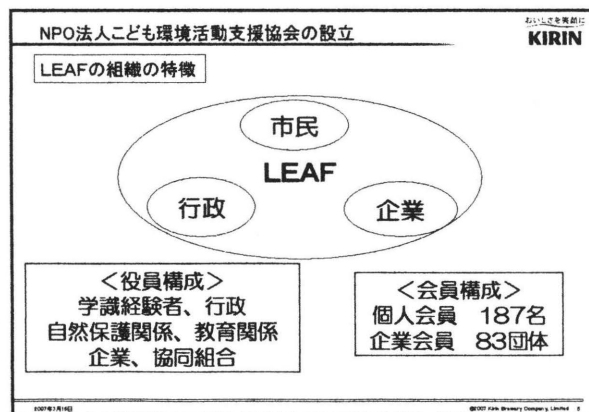
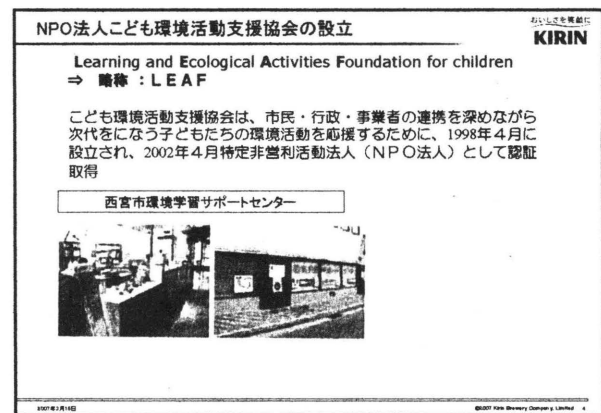
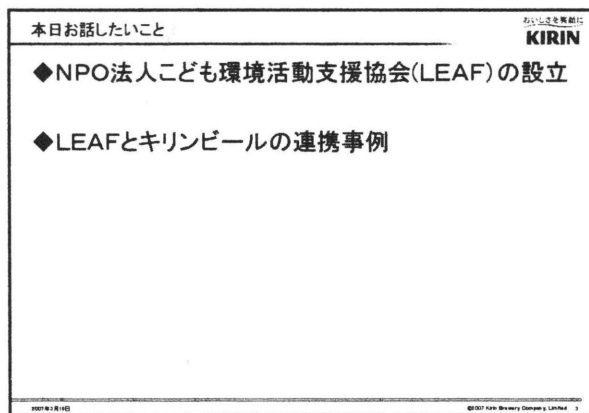
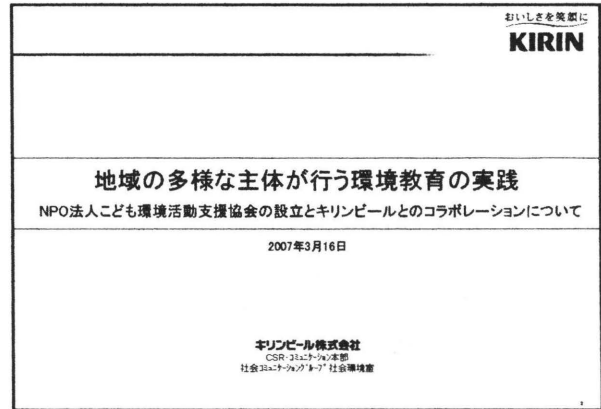
	カリキュラム内容
1校時	消費電力量を体感しよう～自転車発電機を使って～
2校時	エネルギー問題と解決に向けた取り組み・課題について知ろう
3校時	～太陽光発電を中心として～
4校時	太陽光電池の新しい活用アイデアを考えよう
5校時	
6校時	新しい活用アイデアを発表しよう～京セラ担当者に提案しよう～



■ これまでの実践事例(作成教材)

教材「みんなの家に電気が届くまで」(小学校高学年)
協力:関西電力株式会社



LEAFの事業内容

① 地域に根ざした持続可能な社会に向けた教育の調査研究事業

- 環境学習事業(2011年 地球ワタナベクラブ「にのみや」EWC)の企画・運営及び「市民版エコアクションカード」の提案
- 「エココミュニティ情報掲示板」の作成

エコカード
エコアクションカード

LEAFの事業内容

③ 会員企業・事業者と連携した環境学習プログラムの実施

● 「衣」「食」「住」「エネルギー」「エコ文具」「びん」の各分科会による環境学習プログラムの実施

- 衣「服の一生」
- 住「住まいに生命を」
- 食「食は生命の輝き」
- エネルギー
- エコ文具
- びん

LEAFとキリンビールの連携事例

お客様からの信頼を得るために、多様な媒体の組み合わせ等により、効果的な環境広報・広告を展開する

テレビ
ラジオ
インターネット
マス広告
店頭CF
電車内副都心
スポーツイベント
工場
販売場
地域イベント
環境取り組み

LEAFとキリンビールの連携事例

環境コミュニケーション試行事業の開始

一方的な情報発信だけでなく、お客様とのコミュニケーションを図るために、参加できる「場(プラットフォーム)」をつくり、参加型広報活動を積極的に行なうと同時に多様な媒体による情報発信を行なう

(2004年よりスタートし、2005年は、神戸工場の年間を通じた催しの企画運営をNPOとの連携で実現)

他企業
NPO
官庁
研究機関
市民
企業PR情報発信
情報発信媒体
Web
地方TV、FM局 etc...

LEAFとキリンビールの連携事例

試行事業の概要(2005年実施分)

種別	実施内容	件数	費用
テレビ	1. 番組情報(実況)放送から見える地球温暖化	82件	
ラジオ	2. エコトピア(生活情報)	17件	
インターネット	3. エコトピア(環境情報)	305件	
マス広告	4. 電車内副都心(環境情報)	170,000件	
店頭CF	5. エコトピア(環境情報)	22件	
電車内副都心	6. エコトピア(環境情報)	22件	
店頭CF	7. エコトピア(環境情報)	3件	
店頭CF	8. エコトピア(環境情報)	2件	
店頭CF	9. エコトピア(環境情報)	12件	3,183円
店頭CF	10. エコトピア(環境情報)	36件	
店頭CF	11. エコトピア(環境情報)	112件	172円
店頭CF	12. エコトピア(環境情報)	2,472件	
店頭CF	13. エコトピア(環境情報)	2,468件	124,800円
店頭CF	14. エコトピア(環境情報)	1件	128,300円
合計			

LEAFとキリンビールの連携事例

1. キリンビールの環境コミュニケーションの事例より

試行事業における現状の評価と課題

備し
コミュニケーション
地域

評価
NPOのノウハウで質の高い催しが開催でき、参加者の評価も高い。
各地でのNPO連携を旨め、地域でのコミュニケーション推進。
より良い地域づくりのための協働を通して、市民の代弁者であるNPOとコミュニケーションがはかれ、学ぶことが多い。
当社にとってのステークホルダーの取り組み。
他工場でも社外との連携が望めるよう展開していく。
NPOだけでなく、他企業との連携なども試行していきたい。
地域の中で、企業と市民が共に学び合えるしくみとして、社会的意義がある。
地域の中での機能が維持・向上できるように連携を継続する。
持続可能な社会に向けた次世代育成のための具体的な取り組み

これまでの活動を通じて

おいしさ笑顔に
KIRIN

- ・ 個別の取り組みでなく、社会的なしくみにすることが重要
 - そのためには行政の関わりも必要
 - 社会的な動きにするためには他者と協働が必要
 - ・ 共感を獲得できるようなコミュニケーションによって協働が生まれる
 - つなぎ役の存在が重要
- ・ コミュニケーションは、学びあうことに通じる
 - 対立しがちな立場でも未来に向けた時間軸を設定すると関わり合える
 - 「地域性」は重要な要素である
 - 他者と目的を共有してひとつのものを創り上げるときに、最も深いコミュニケーションが成立する
- ・ 「社会」や「市民」「お客様」は、つかみどころのない存在
 - 企業が社会性を向上させるためには、様々な「代弁者」と接することが重要
- ・ 共に創り上げる過程に参加することが企業にとってもメリットになる
 - 社会からの信頼を獲得する取り組みは、リスクを低減させ、顧客づくりにつながる
 - 企業の目的を理解してくれるつなぎ役のNPOが存在しないなら共に育てれば良い

©2007 Kirin Brewery Company, Limited 1.3

おいしさ笑顔に
KIRIN

おいしさを笑顔に

KIRIN

<http://www.kirin.co.jp>

ご清聴ありがとうございました。

©2007 Kirin Brewery Company, Limited 1.4

レジュメ「千代田区立昌平幼稚園の環境教育の概要」

千代田区立昌平幼稚園 竹山朋江

1. 環境問題への考え方、ISOの取り組みの主旨と意義（千代田区の環境指針を受けて）
- 次世代に豊かな地球環境を引き継いでいく社会を作るために、身近な環境に自ら興味や関心をもってかかわるなかで、それらに対する理解を深めたり大切にしようとする気持ちを育てたりする。
 - ・ 自然体験（稲作を中心とした自然物とのかかわり、通常の遊びを通じた教育活動、飼育栽培、遠足など）を通しての環境意識の向上。
 - ・ 廃材の利用を通して資源を有効に活用する意識の向上。
 - ・ 生活習慣の自立を図りながら環境を大切にすることを身につけ環境に対する意識を育んでいく。
 - 職員自らが主体的に環境問題に取り組んでいく姿を見せ幼児、保護者などの意識を高めていく。

2. 重要環境課題

身近な環境に興味をもってかかわる中でそれらに対する理解を深め、その意義や大切さを知らせる。

- ① 身近な自然環境に関心をもち、積極的にかかわる中で自然を愛する心を育てる。
豊かな自然環境を園庭を作る（水田などのビオトープ）
- ② 自分の住んでいる町に関心をもってかかわる中で自分の町を愛する心を育てる。
一斉清掃・地域散策や自然や文化財などに触れることのできる遠足を実施
- ③ 生活の中の身近な物との関わりの中で資源を大切にすることを育てる。
廃材の遊びへの活用・リサイクルの徹底と手洗い、うがいなどの生活習慣の指導
(その他) * エコオフィスの徹底
* 研究課題 ー学びを促す指導のあり方ー 小さな自然を生かして

3. 教育方針と指導の重点

<教育目標>

生命尊重と人権尊重の精神を基に、心豊かで主体的に生きる力をもった幼児の育成を目指す。

- 自分で考える子
- 仲良く遊ぶ子
- 明るく元気な子

<指導の重点>

子どもが身近な自然環境に意欲的にかかわり、多様な感動体験を通して豊かな学びが得られる環境を充実させ、興味・関心や発達に即した活動を展開していく。

- 園庭の自然物の特性が分かり友達と一緒に探究心をもってかかわれる環境を整え、主体的に学んでいこうとする意欲と豊かな感性や表現力を培う。
- 稲作などの自然体験を通して協同的な学びを促し、生命あるものへの慈しみの気持ちを育てる。
- 栽培活動を通じた食育と自然体験を通じた環境教育の推進を図り、自分を大切に、身近な環境に関心をもってかかわれる力を育てる。

- 親子の自然体験活動を充実させ、自然に親しみ豊かな感動を伴う共通体験となるよう工夫する。

・親子でトライ&チャレンジ ・園庭整備 ・ガーデニングクラブ

- 自然や資源を大切にすることを育てるために、保護者やNPO法人等と連携した環境教育を実践し、自然環境への興味・関心を一層高める。
- 地域の方々の協力を得た稲作指導や自然観察会などを行い地域との連携を深めると共に、ビオトープが地域の自然のネットワークとなるように教育内容をホームページなどで積極的に発信していく。
- 紙のリサイクルや廃品の活用、ゴミの分別や水の使用量を減らすことなど、ISO14001に基づく環境教育を家庭と連携しながら推進し、物や資源を大切にすることをはぐくむ。

4. 地域や企業などとの連携について

ビオトープづくりには専門的な知識や技術を必要とする。そこで、地域や企業などの専門家の協力を仰ぎ、より有効な手段で実現を図る。

- ① アイデアや技術の提供
- ② 不用品などの資材の提供
- ③ 情報交換をすることで環境問題への意識を高め、連携を図る

* グランドワーク運動の推進：住民・企業・行政・学校のみんなが協力してより良い環境を作ろう。

5. 昌平幼稚園の地域や企業との連携

(1) 昌平キッズエコ 親子で自然体験ゲーム

PW 杉並 (NPO 環境教育団体)

① 目的

子どもたちの気付きや理解から始まり、段階的に生態系の原理や文化などの知識、管理や保全などへの人間の役割、価値観の多様性や環境問題の構造などを知り、野生生物と自然資源に対して責任ある行動や建設的な活動を身につけていく。

② 内容 プロジェクトワイルド (米国)

自然の生態系についてゲームなどを通して遊びながら親子で学ぶ

<保護者>

子どもとの触れ合いを楽しみながらゲームに参加し、自然や環境に関心を持ち、積極的に環境問題に取り組んでいこうとする気持ちをもたせる。

<子ども>

保護者と一緒にゲームを楽しみながら自然のしくみや生態系などに関心をもたせ、気付きや理解につなげていく。

(2) 昌平キッズエコ 水と私 (感性を磨く)

法政大学地域研究センター・臨床美術協会・千葉大学教育学部

① 目的

水とのかかわりを通して感じたことや考えたことを自分なりに表現し、豊かな感性や表現力を養い自然環境への意識をもつ。

② 内容（子どもだけでなく保護者も自由参加）

水のもつ不思議な側面を体験を通して実感し、そこから得られたものを「感性画」という手法で表現する。

③ 評価

保護者への意識啓発も含め、幼稚園がさまざまな所と連携しながら環境教育を推進していこうとする一歩となり、広い視点にたった環境教育の推進を図ることができた。<子ども>活動内容に無理があったが、豊かな感性を育むことができた。

- ・水の特質に触れ、探究心をもって意欲的にかかわる。
- ・水に対しての認識が深まり、水が幼児にとって意識化され特別な存在になる。
- ・既成の概念にとらわれない自由な表現活動を通して表現することの面白さを堪能する。
- ・一人ひとりの思いや感じ方が違うということを実感したり、それぞれさまざまな表現があるということを知る。
- ・自分の表現が認められる喜びが満足感へとつながり、表現活動への抵抗感がなくなる。
- ・さまざまな表現方法があることを知る。

<教職員>

- ・専門分野の方々から表現活動のさまざまな方法を学ぶ。
- ・情報交換を通して視野を広げる。

④ 課題

- ・子どもの発達に即した活動内容や方法の工夫。
- ・長期的な視野から計画的に活動を展開していく。
- ・積極的な情報発信をし、さまざまな分野と連携しながら推進。

企業・大学・NPOとの連携による 教育支援ネットワークづくり ～地域教育推進ネットワーク東京都協議会の取組～

東京都教育庁生涯学習スポーツ部計画課
梶野 光信

資料12東京都教育庁 梶野光信

都における社会教育行政固有の役割

⇒ 学校教育とは密接な関係を持ちつつも
学校教育単独では担えない役割

「学校教育と軌を一にした社会教育」の推進

資料12東京都教育庁 梶野光信

都における学校教育と社会教育の関係の捉え方

資料12東京都教育庁 梶野光信

都としての社会教育を具現化していくための「施策」モデル

資料12東京都教育庁 梶野光信

地域教育プラットフォーム構想とは？

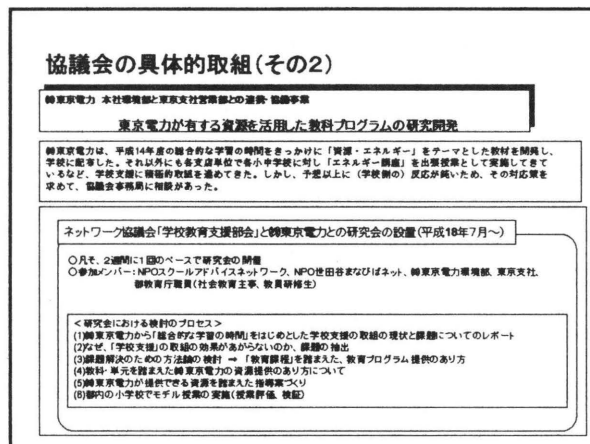
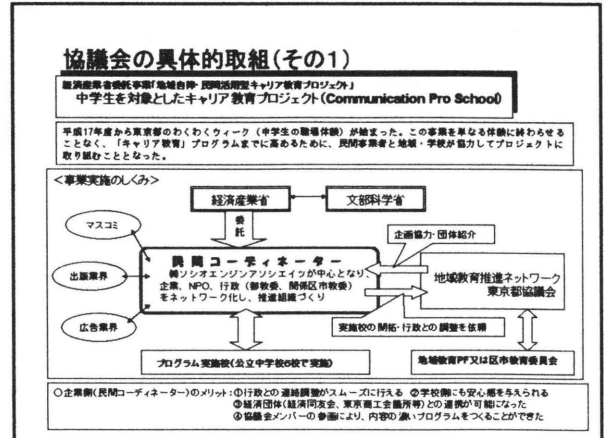
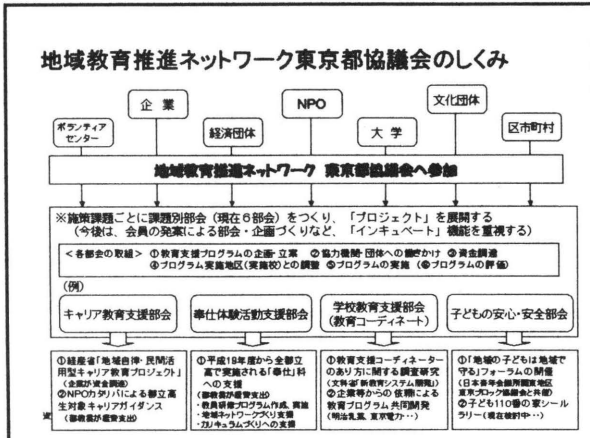
東京都ならではの多様な社会資源(企業・大学・NPO等)の効果的に活用されるしくみづくり
「地域教育推進ネットワーク 東京都協議会」

資料12東京都教育庁 梶野光信

地域教育プラットフォームの事業展開イメージ

資料12東京都教育庁 梶野光信

資料12 東京都教育庁 梶野光信



ネットワーク協議会を設置したことの効果

- (1) 企業等にとってのメリット
 - ・学校や教育委員会へのハードルが低くなった。
 - ・教育支援コーディネーターのアドバイスを受けることで、満足度の高い教育プログラムづくりができた。
 - ・（協議会が関与することにより）教育プログラムの質的担保がなされた。
- (2) 学校側にとってのメリット
 - ・児童生徒に外部資源を活用した魅力的な教育プログラムを提供できた。
 - ・『ホンモノ。』に出会うことで、児童の学習の動機付けが高まった。
 - ・教育支援コーディネーター（や協議会）が調整役を務めてくれたことで打合せ時間の軽減など、教員側の負担を減らすことができた。
- (3) 私たちにとってのメリット
 - ・外部資源とのコラボレーションにより、実に多様な教育プログラムが展開できることを（行政内部に）示すことができた。
 - ⇒ 「社会教育も総務役に立つのではないか」という声も聞こえるようになってきた

資料12 東京都教育庁 梶野光信